カトリック教報

カトリック長崎大司教区
広報委員会
〒852－8113
長崎市上野町10－34
カトリックセンター内
TEL 095－843－3869
FAX 095－843－3417
振替口座 01880－5－2699
発行人
山田良秋
印刷所
株式会社 藤木博英社

教皇さまの意向

・世界　高齢者たちが信仰を伝え、次の世代につなげることができますように
・日本　難病と闘う患者・家族・医療従事者を、日本の社会が支援しますように

青年ら、大司教に質問や思い語る

「これからの皆さんへ―」
長崎青年の日 初めて開催

高見大司教の話を聴く青年ら ＝長崎大司教館＝

教区青少年委員会は11月3日（金）～4日（土）、長崎大司教館とカトリックセンターを会場に長崎青年の日を開催し、各地の青年18名を含む30名余が集まった。長崎教区の青年活動が直面しているさまざまな問題を見つめ直す一つのきっかけとして、また、青年と大司教様との交流を通してこれからの新たな歩みを始めることができるように願う場として、いろいろなプログラムが行われた。

初日はオリエンテーション、青年同士の交流を深めるためのレクリエーションがあり、青年、司祭、修道者がそれぞれ4チームに分かれて行われた。人間が持っている「知性」を使った2人1組のゲームでは、お互いがうまくいかなかったり、呼吸がぴったり合い喜び合ったりする場面もあり、和やかな雰囲気で進んでいった。高見大司教様から青年に向けてのお話では、神様からいただいた信仰に基づいた行動を中心に次のように語られた。お話の中の「信仰はキリストの目線に立って行うこと」からは、日常生活に向かっている目線をキリストと同じ方向に向き直す気づきを教わった。また、「祈ることを大切にする」ことについては、神様のみ心にかなう行いにするために求められていると知ることができた。夕方、カトリックセンターで大司教様と共に食事をして交わりを深め、その後、お話を受けてグループごとに分かち合いをし、感謝の祈りのうちに終えた。

2日目は朝食後、大司教館で朝の祈り。そして、前日の分かち合いをもとに青年から大司教様へ質問や思いを語り、青年活動などに関することを話し合った。大司教様は（召命も含めた）青年時代のこと、青年活動の促進を応援することなどを話された。この語らいの後、感謝のミサがささげられた。

この集いに参加した青年からは、「今、青年活動をやってきて、悩んでいる事はいろいろあるけれども、それでも前を向いて、信じて続けていくことが大事だとあらためて決心した」「他地区の実情などを知ることができて刺激になった」などの声が聞かれ、参加した青年一人ひとりにとって有意義な時間となった。

来年行われるシノドス（世界代表司教会議）において「若者・青年」が一つのテーマとして取り上げられることになっている。青年の信仰のともし火をもっと燃え立たせ、それをこれからの人にも伝えることができるように、また、教会の中で青年が生き生きと過ごし、教会の新たな原動力となるように手を携えていきたい。

青少年委員会委員　小島明

プログラムを通して交わりを深める青年ら
①講話 ②夕食 ③分かち合い ④大司教への質問

司教座聖堂は 教会共同体のシンボル
11月5日に献堂記念ミサ

11月5日（日）長崎大司教区の司教座聖堂である浦上教会の献堂を祝う記念のミサが執り行われ、高見三明大司教主司式のもと司祭・修道者・信徒ら約300人が集まり、祈りをささげた（写真）。

長崎教区の司教座聖堂は、使徒座代理区の時代を経て、1891年長崎司教区、1959年大司教区昇格の時も大浦天主堂とされていた。その後、1962年1月1日付で今の浦上教会が新しい司教座聖堂に指定された。

高見大司教は、「教会は神の言葉を聴く人たちの集まりであるので、聖堂はその場所としての単なる建物ではなく、神にささげられた場所である。中でも、司教座聖堂は教区の典礼における中心であり、教区の象徴として、また教会共同体のシンボルである。ここを中心に私たちはローマの教皇様や世界中の信徒とつながっている」と語り、司教座聖堂の大切さを語った。

教区では、今年から11月1日を長崎教区司教座聖堂献堂記念日として制定している。記念ミサは今後も毎年行っていく予定。

ペトロ 阿野武仁 神父 帰天

9月、訪問先のマカオで体調を崩し入院していたが、10月13日未明に逝去。78歳。

1939年7月1日長崎市生まれ。中町教会出身。66年12月16日ローマ・聖ペトロ大聖堂で司祭叙階。68年平戸小教区助任、70年長崎公教神学校、81年深堀主任（86～87年香焼主任代行兼務）、91年カトリック中央協議会、2001年教区生涯養成委員長、06年島原主任、07年三浦町主任、13年丸尾主任。

同じ中町教会出身の山内実師は19日、通夜の説教の中で、体調を崩した阿野師のために上五島地区、特に丸尾小教区の皆さんがロザリオの祈りをささげ続けていたことについて触れた。「阿野神父様は祈りに応えるかのように二度意識を回復され快方に向かい、『日本に帰るんだ』と言っておられたそうです」また、後輩思いで若者に対しても心を配る同師の姿を振り返りながら、「金祝を迎えられた2016年には、バチカンで教皇フランシスコと共に記念のミサをされたことを大変喜び、感謝をしておられました。51年にわたる司祭生活。『阿野神父様は厳しかった』との声もあるけれど、『本当はうまく表現ができないだけで、心はとても温かい神父様だった』という声も聞かれた」としのんだ。

葬儀ミサと告別式は10月20日、高見三明大司教の司式により浦上教会で行われた。

会葬御礼

カトリック長崎大司教区司祭・ペトロ阿野武仁神父の逝去につきましては早速、ご丁重なる弔問・弔電ならびにご香典を賜り、葬儀の際にはご会葬・献花の弔意に接しましたうえ、各教会・修道院で故人のためにお祈りいただき、誠にありがたく厚く御礼申し上げます。

一々拝眉のうえ御礼申し上げるべきところ、紙上をもって代えさせていただきます。

二〇一七年十月
カトリック長崎大司教区
大司教　高見三明

菊地 功司教（新潟教区）
東京教区大司教に

教皇フランシスコは、東京教区のペトロ岡田武夫大司教の引退願いを受理し、後任として新潟教区のタルチシオ菊地 功司教（59歳）を任命した。バチカンが10月25日正午（日本時間同日午後7時）に発表。

着座式は12月16日（土）11時から、東京カテドラル聖マリア大聖堂（関口教会）で行われる。

菊地 功被選大司教の略歴

1958年11月1日岩手県宮古市生まれ。86年3月16日司祭叙階（神言修道会員）。86年～94年西アフリカ・ガーナで小教区司牧、99年～2004年神言修道会日本管区長。04年9月20日司教叙階（新潟教区）。カリタスジャパン担当司教・責任司教、アジア司教協議会連盟（FABC）人間開発局委員、日本カトリックボランティア連絡協議会担当、札幌教区司教座空位教区管理者、HIV/AIDSデスク担当、司教協議会東日本大震災復興支援室担当、カリタスアジア総裁（現在2期目）、教皇庁開発援助促進評議会（「Cor Unum」）委員、14年9月～教皇庁福音宣教省委員など歴任。

県内外から小学生参加
小神学院で一泊体験入学

参加した小学生たちと神学生

11月4日(土)から5日(日)にかけて、長崎カトリック神学院で一泊体験入学が行われた。今年は、県内外から13人の小学生が参加し、神学生たちが企画したレクリエーションや祈りの集いを体験した。

初めは緊張した面持ちで参加していた小学生たちも、神学生たちとの触れ合いを通して次第に笑顔を見せ始め、一泊体験の終わりには名残惜しそうに神学生たちとお別れをしていた。中には、神学院へ入る決意を口にする小学生もいた。

同神学院の松田聡史院長は「一泊体験中は神学院内の活気が違った。やはりこの建物の容量を考えただけでも、せめて今の2倍の人数は欲しい。また、この一泊体験が神学生たち自身にとっても、自分たちの生活を見直すきっかけとなってくれたら」と語っていた。

また、「11月の開催は少し遅すぎる」との声もあり、来年度の神学院一泊体験は10月に行うことができるよう、後日、スタッフ会議の中で検討された。

ほしかげ

「フランシスコ・ザビエルのときは委員会やら会議やらのうしても宣教しよった」。今は赤城の墓地に眠る先輩の司祭がそんな意味の発言をしておられた。教区組織の再編に伴う諸委員会や評議会の立ち上げにより、時間と経費の使い方が大きく変わった頃のことだったと記憶する▲一人が意思決定し皆が従うだけなら会議は不要である。だが教会共同体の意思決定はできるだけ皆で行いたい。だから会議を開く。とはいえ教区でも地区でも小教区でも会議出席者の負担は大きい。教会への奉仕は厭わないが、会議の多さに閉口している向きもあるのではなかろうか。役職を辞退したくもなる▲「～について」という議案で会議を始め、「何か意見はありませんか」、「どうしましょうか」と問う形では、議案を理解して意見を述べ、さらにそれを集約して結論を導くために大変な時間を要してしまう。判断に必要な資料も手元にないことが多いだろう。論点が絞れなければ脱線もする▲「報告事項は報告であり検討しない。検討事項は提案された結論を審議する」という原則にしてはどうだろう。経緯を見て結論を承認するか否かを問うようにすれば、「承認する」、「以下のように修正して承認する」、「承認しない」を判断しやすい。準備するのは会議を招集する側だ。準備のない会議は招集しないという選択があってもいい。（嘉）

連載企画（全5回）

150周年を記念する 浦上四番崩れ ― 最終回

純心聖母会　片岡千鶴子

五、四番崩れの意義
― 彼ら浦上の農民こそ新しい時代の門を開けた者だった。

高札の撤去は欧米の世論に対応して実現したもので、明治政府が信教の自由という近代精神に則して決定したものではありませんでした。しかし、259年間続いた信仰弾圧が停止されたことは、重要な出来事であり、ここに「浦上四番崩れ」の日本の思想史上の意義があります。もし、先祖たちが迫害に屈して簡単に信仰を捨てていたら、浦上キリシタンの信仰は日本の歴史に何の影響も与えることはなかったに違いありません。先祖たちが信仰と良心の自由を守って貫いた「旅」での無抵抗の抵抗は、日本の近代化を促すものになり、やがて、1889年、明治憲法の第28条に「信教の自由」が規定されることになるのです。

大佛次郎氏は絶筆となった『天皇の世紀』を書き進めるうちに「浦上四番崩れ」を知り、衝撃を受けています。亡くなる前年、病躯を押して津和野に取材し、「旅」のタイトルで『天皇の世紀』に書き収めました。その上、章末に所感を述べて次のように記しています。

「浦上切支丹の〈旅の話〉は、この辺で打切る。私がこの事件に、長く拘り過ぎるかに見えたのは、進歩的な維新史家も意外にこの問題を取上げないし、然し、実に三世紀の武家支配で、日本人が一般に歪められて卑屈な性格になっていた中に浦上の農民が一人〈人間〉の権威を自覚し、迫害に対しても決して妥協も譲歩も示さない、日本人としては全く珍しく抵抗を貫いた点であった。当時、武士にも町人にも、これまで強く自己を守って生き抜いた人間を発見するのは困難である。権利という理念はまだ人々にない。しかし、彼らの考え方は明らかにその前身に当たるものであった」。

さらに大佛氏は「…明治の元勲と尊敬された人々よりも、彼ら浦上の農民こそ新しい時代の門を開けた者だったと言える」と述べています。

また、外国事務局判事として「浦上四番崩れ」に深く関わった大隈重信が「…長崎で捕らえた耶蘇教徒を各藩に配流し、神道を以て説諭し、改心させることになった。しかるにその結果は、どうであったか、ああ、余は維新後、外交談判の行懸りから、耶蘇教徒問題に関係することになったが、何の成功する所なく、余が生涯の失敗の一事となった。これは余一人のみにあらず、他の関係者においても同様であった」と『大隈伯昔日譚』に述べていることは、共に「浦上四番崩れ」の歴史的意義をあますところなく言い表していると思います。「記念とは、出会いを取り戻すこと」と、ある書にありました。

「四番崩れ」150年を記念するとは、先祖たちの信仰の精神との出会いを新たにして私たちの歩みを確かにすることだと思います。

（終わり）

教区シノドス　これからどう進む④（最終回）

神のいつくしみを 共に生き、伝える

ミゼリコルディア長崎の発足

福音化推進部部長　紙﨑新一

先日、出津・黒崎教会を訪れると、聖堂内に『グリーン席』が。高齢者など歩行困難な人の席が『グリーン席』、いい呼び名ですね。

2004年、長崎教区で物理的なバリアフリーが呼びかけられた頃からすると手話通訳が一般化し、優先席や幼児室、聴音補助器や拡大鏡、訪問者や異言語者への案内、教会に足を運べない方々への様々な工夫などが検討され福祉の輪は広がっているようです。また、病人訪問、献金活動やバザー、人々のために献げられる祈りも奉仕活動と見るなら教会の中にいつくしみを生きる活動はいっぱいです。

『ミゼリコルディア長崎』の発足に向けた準備は今、小教区や地区の福祉の輪や地域ですでに社会的な活動を行っている個人やグループの把握と整理、そのネットワークづくりに重点を置いて進めています。知ることで輪を広げ参加を促す啓発となり、たくさんの奉仕がより生かされるためです。

『ミゼリコルディア長崎』の発足に向けてと聞くと、長崎教区にNPO法人のような教区立のボランティア団体を立ち上げていると考えるでしょう。確かにその方向性はあります。しかし、教区シノドスは、今までの信仰の視点から新たな視点を目指して開かれ、その提言から教区全体で取り組むべき重要課題の一つとなりました。それは、キリシタン時代の『みぜりこるぢあ』やイタリアなどで今も活躍している『ミゼリコルディア会』や『ビンセンシオ会』などの信心会やアクション団体の一部の活動にとどまれない、信徒一人一人が考え行動していく重要な課題となったということです。

教皇フランシスコは、年間第33主日を「貧しい人のための世界祈願日」と定め、「口先だけではなく、行いをもって愛し合おう」（ヨハネ3・18参照）と、キリスト者が助けを必要としている人たちに見せかけではなく積極的に出向いていくよう呼びかけておられます。『ミゼリコルディア長崎』の発足は教会全体、キリスト者一人一人の使命を生きるためなのです。

「わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである」（マタイ25・40）。彼らの中に主を見ることができるのがキリスト者です。支え合う社会を目指し、長崎教区民がキリストのいつくしみを生きるよう共に歩みましょう。

新たな歩みを始めて

褥崎教会献堂50周年

ミサ後、皆で記念撮影

このたび、褥崎教会は献堂50周年を迎え、その記念ミサおよび祝賀式を10月5日（木）に行いました。

記念ミサは、高見三明大司教様司式のもと、褥崎教会歴代主任神父様方と佐世保地区の神父様方、また、昨年閉園となった「しとね保育園」と共に、褥崎教会と特に子どもたちのために長きにわたり御奉仕をしてくださっている純心聖母会のシスター方、褥崎教会出身の神父様やシスター方、その他の招待客と褥崎教会の信徒と共に、300人余りの方々がミサに参列してくださいました。

祝賀会は教会前広場で行いました。前々日まで、記念実行委員会一同、雨の心配をしていましたが、当日は日が差して安堵しました。また余興で、和太鼓の演奏や、褥崎教会が継承している「あやたけ踊り」の披露など、皆さんに楽しいひとときを過ごしていただけたのではないかと思います。

50年の節目にあたり、私たち褥崎教会一同、先祖たちが守ってきた信仰をあらためて大切にし、互いに支え合っていくことを願いながら、新たな歩みを始めています。

皆様、褥崎教会に、ぜひお越しください。

主任司祭　大水満

生きる指針を得る試み

ミカエル会主催の山内師講演会

毎回分かりやすく熱心に語る山内師

山内清海師連続講演会は、現代における諸問題を、カトリシズムの視点から捉え、生きる指針を得ようという試みである。一般市民にも伝えたいという願いの実現を求め、毎回、長崎市立図書館多目的ホール（長崎市興善町）において開催している。

10月22日（日）に開催した第3回講演会は『なぜ生きなければならないのか?』ということの答えを求めて、100名を超える聴衆が参加した。

講演は、人生の目的に対する親鸞聖人の答えや、五木寛之氏、小浜逸郎氏の考えの紹介から始められ、「人生の『目的』と『目標』は明確に区別すべきである。『人生の目標』は必要であり、積極的意義はあるが、限界もある」と述べられた。すなわち、『人生の目的』を見失うことは人を絶望へと導くことに繋がっていく。そして、「『人生の目的』は、自然科学的探究対象ではなく信仰的それである」と述べられる。神は、時として、幸福とは矛盾すると思えるような試練を私たちにお与えになることも多い。「なぜ苦悩に満ちている現世を、それでも生きなければならないのか」その答えはキリストの生涯にある。キリストと共に、その十字架を担うことによって、私たちは人類の普遍的願望である「完全な幸福」へと至る。まとめとして、阿南慈子さんの言葉が紹介され、講演は終了した。第4回講演会は企画中。

ミカエル会　小畑郁男

140回クルシリヨ

11月2日（木）から5日（日）まで福江教会を会場に、担当司祭中村倫明師の指導のもと、12の教会から男性12人、女性7人（うち1人がプロテスタント）計19人が参加し、クルシリヨが開催された。29歳から72歳までの幅広い年齢層の参加者は最初消極的な様子だったが、次第に聖霊に満たされ、恵みの4日間を過ごした。

長与1、福江7、楠原1、浜脇1、五輪1、奈留1、三井楽2、貝津1、井持浦1、京都・河原町1、横浜・百合ヶ丘1、日本基督教団（生田教会）1

良書紹介

★日本キリシタン殉教史

著＝片岡弥吉

「日本キリシタン殉教史、これは単なる殉教の記録ではない。450年前、キリスト教と巡り会った日本人がいかに考え、いかに生きたかを確かに記録した、壮大で崇高なある日本人たちの叙事詩である」

本書は、1980年に亡くなったキリシタン研究者、片岡弥吉氏の最後の著書。時事通信社発行により1979年初版から91年第7版まで重版され、その後、絶版となっていたが、2010年に智書房により再刊となった。著者の生涯の研究テーマであった「浦上四番崩れ」も日本の殉教史に位置づけて、最終章「Ⅳ復活と再弾圧」で取り上げてある（『日本キリシタン殉教史』の再刊によせて」から）。

税別3200円。智書房発行。サンパウロ、浦上キリシタン資料館で販売。

カトリック婚活パーティー
2018年1月14日（日）13時　滑石教会信徒会館
対象　カトリック信者で初婚の方　参加費　1,000円
人数　男女各15名　締切　2018年1月7日（日）
申込　カトリック滑石教会にある申込書に記入・提出、その後に確認し、受け付け。
問合せ TEL095-856-8623 滑石教会（婚活支援部）

✝主の平安
株式会社 五島式典社（斎場）五島中央会館 奈留会館
代表取締役　ヨゼフ　浦　昭
24時間営業
五島市上大津町1385番地1　TEL（0959）74－5551　FAX（0959）74－5552
五島市奈留町浦1899－1　TEL（0959）64－3101　FAX（0959）64－3102

ハマチ・タイ養殖、アジ・イワシ加工、中型旋網
エテルナ・ワコー（株）
代表取締役　ミカエル　溝口　晃
〒858－0926　佐世保市大潟町586
TEL（0956）47－4380

白蟻調査無料・駆除予防工事5ケ年保証付
白蟻防除施工士
大田白蟻研究所
代表者　大島和彦
（〒850-0811）長崎市矢の平1丁目14番15号
☎長崎 095－822－8436
FAX 095－822－8488

人と人の絆を大切に・ご葬儀のご相談は
メモリードホール・典礼会館・中央斎場
長崎・諫早・大村・佐世保
株式会社メモリード　メモリード葬祭　検索　事務局　ペトロ　田川慶司
0120-44-6666

石碑
文字彫刻
墓地工事
リフォーム
墓地分譲
長崎石彫（ながさきせきちょう）
ヨゼフ　岩永　博明
☎（095）862-2469
長崎市梁川町6-17　岩永ビル

貧しさと正義を生きる

下五島・牢屋の窄殉教祭

浜脇教会で行われた殉教祭

10月29日（日）、牢屋の窄殉教祭（浜脇小教区主催）が行われた。台風のため殉教地での開催は中止されたが、定期船が欠航する中を海上タクシーで駆け付けた信徒は約200人、浜脇教会をいっぱいにした。

ミサを司式した下五島地区長の中村 満師は説教の中で「大しけの時はマッサージ機に乗っていると思えば余計な力が抜ける」と笑いを誘いながら、苦難においても神に身を委ねた殉教者たちの信頼に目を向けさせ、「神様の前に頭を垂れる貧しさと、永遠の価値観を表明する正義を生きよう」と呼び掛けた。

参加した司祭の一人は、「帰り道、4歳の殉教者の存在を知った女の子は『私と同じ年！』と目を輝かせていた。大波に揺れる船の中でも父親の腕の中で安心しきって眠る生後半年の幼子の姿は、殉教者たちの心を体現しているかのようで印象深かった」と話した。

来年2018年は、迫害から150周年の節目を迎える。

〝「最後の授業」の準備を〟

生月・黒瀬の辻殉教祭

11月12日（日）午後2時から黒瀬の辻（平戸市生月町・クルスの丘公園）で、平戸地区の司祭・修道者・信徒約200人が集まり、福者西家族の殉教記念ミサ（山田小教区主催）が行われた。穏やかな天気の中、2年続けて現地での開催となった。ミサ前には殉教者西家族の人となりが紹介され、殉教祭のよい導入となった。

説教は中田輝次師（田平主任、写真）が務めた。「『最後の授業』という取り組みがあります。もし余命数日だとしたら、という想定で行う授業です。西家族の生きた最後の日々は、日頃から準備された『最後の授業』だったのではないでしょうか。私たちも、身近なところから、神をどのように信じているか証しができるように、それぞれの『最後の授業』を用意しましょう」と呼び掛けた。

正面は生月の殉教者を描いたレリーフ

参加者たちは、自分なりの「最後の授業」を行う力を殉教者に願いながら、ミサを終えた。

ファティマの聖母出現100周年

平和のために祈るミサ

聖母像に献香する主司式者・前田万葉大司教

今年はファティマの聖母出現100周年。広島教区は10月25日（水）、日本の各地を巡回していた聖母像（複製）を迎え、18時からカテドラル世界平和記念聖堂（幟町教会）で「ファティマの聖母の取り次ぎを願いながら平和のために祈るミサ」を行った。司教団、駐日教皇大使、参事官、司祭団と、参列者350人余が共に祈りをささげた。ポーランド人女性から寄贈されたというこの聖母像は来年5月13日（日）まで広島教区内を巡回し、同日から世界平和記念聖堂に安置される予定。

日本十六聖人列聖30周年記念行列への参加

高山右近終焉の地マニラを訪ねて

巡礼団全員で記念撮影 ＝聖トマス大学＝

「聖トマス西と十五殉教者」の列聖30周年に当たり、下窄英知神父を団長とした（お告げのマリア修道会のシスター9名と信徒10名を合わせた）総勢20名の巡礼団が10月6日から10日にマニラを訪れた。巡礼先は、十六聖人の一人、聖ロレンソ・ルイスの出身教会であるビノンド教会、十六聖人が関係したドミニコ会のサント・ドミンゴ教会と聖トマス大学、日本二十六聖人の中心人物の一人、聖ペトロ・バプチスタゆかりの教会。そして、今年列福された福者ユスト高山右近の関連場所などであった。

8日の主日、ビノンド教会ではマニラ大司教区の前教区長ロザレス枢機卿の司式でミサとロザリオの聖母の行列（毎年10月7日ロザリオの聖母の祝日に行われている）が聖堂内で盛大に行われ、長崎の巡礼団はミサ後朝食のごちそうにあずかり、長崎への巡礼を予定している信徒たちと交流を図ることができた。

同日午後、サント・ドミンゴ教会でドミニコ会関係の29人の聖人像の大行列が行われ、その中に十六聖人の一人、長崎の聖マグダレナが登場した。今年は、中町教会の川脇絹代さんからプレゼントされた新しい着物が着せられており、参列者の注目を集めた。これまでの着物が傷んでいただけに、新しい着物のプレゼントに教会関係者から感謝された。

新しい着物を着た
長崎の聖マグダレナの像

9日はフランシスコ会の聖ペトロ・バプチスタ教会に巡礼。この教会は二十六聖人の中心人物の聖ペトロ・バプチスタ神父が1587年に創立した教会である。ちなみに彼はフィリピンで数多くの教会や病院などをつくったということで大変尊敬されている。彼はフランシスコ会の管区長をしたのちフィリピン総督の大使として日本に派遣され、その足跡は平戸、長崎、京都などに残る。この教会の地下にはフランシスコ会士が宣教に出かけるとき必ず黙想した地下洞窟と、二十六聖人殉教のジオラマを中心とした記念施設があった。

フィリピンと日本の教会は歴史的に深いつながりがあり、今後、巡礼・交流が盛んになることが期待される。

西町教会信徒　長野宏樹

ユスト高山右近

列福答礼公式巡礼

今年2月7日に大阪で行われたユスト高山右近の列福式。日本カトリック司教協議会（会長・高見三明大司教）は、その列福を承認した教皇と列福式を司式した教皇庁列聖省長官、また多くの協力者らへの感謝の意を表すために列福答礼の公式巡礼団を組み、約100人の巡礼団一行がこの10月、ローマを訪れた。

巡礼団は10月11日、バチカンのサンピエトロ広場で教皇フランシスコの一般謁見に臨み、高見大司教ら日本の司教計6人が右近の聖遺物（衣服の一部）を教皇に献呈し、感謝の言葉を伝えた。同日夕方には、今年が日本とバチカンの国交75周年にあたることから、同司教協議会の主催によりローマ市内のジェズ教会で記念のミサがささげられた。

来年2018年2月3日は、福者ユスト高山右近の最初の記念日。同司教協議会では、同日マニラでささげられるミサに合わせて、列福感謝公式巡礼を予定している。

宗教が異なるとき―

長崎南地区家庭委主催の講演会

10月22日（日）カトリックセンターで、長崎南地区家庭委員会主催の講演会「共に生きる学び―家庭の中で宗教が異なるとき」が開催された（写真）。これは同委員会が異宗婚・混宗婚家庭への支援として行っているもので、昨年に続き2回目。

講師は長崎教区司祭の葛嶋秀信師。①結婚②生活の場③葬儀・お墓④法要について、Q&A形式の資料とカトリック教会現勢の表などを用いて説明した。その後、養護老人ホーム聖マルコ園施設長の村上順子修道女（お告げのマリア修道会）の講話へと続いた。初めにDVDの動画で外海地域（出津、黒崎）の紹介があり、続いてスクリーンに画像を映し出しながら、ド・ロ神父と聖マルコ園との関わり、施設の年間行事を通じて〝共に生きる愛の実践〟の取り組みが紹介された。

講演では、参加者から宗教の違いによる現実的な質問が寄せられたほか、講演後も「分かりやすくて良かった」といった声や「どうしたらマルコ園に入所できるか」などの相談が聞かれた。

鉄川与助が建てた教会

孫・鉄川 進氏が講演

11月12日（日）午後5時から田平教会聖堂で、来年の献堂100周年の機運を高める取り組みとして、「鉄川与助が建てた教会」をテーマに、与助氏の孫で設計事務所代表取締役の鉄川 進氏を講師に迎え、講演会を開いた。

鉄川氏（円内）の講演に約100人が集う

聖堂には地元田平教会信徒・修道者や地域の人々、午後からの黒瀬の辻殉教祭からそのまま講演会に駆け付けた平戸地区の信徒も含め約100人が集い、熱気にあふれた。

鉄川氏は祖父与助氏の思い出、記録写真から見えてくること、手掛けた教会の修復で気づいた祖父の思いなど、分かりやすく説明した。「教会は、時代が変わっても使用目的が変わらないので長く残る建築です。これは建築者みょうりに尽きます」

田平教会の信者の一人は、「鉄川氏の思いを胸に、未来に向けて（同氏が手掛けた）この聖堂を神の賛美のために使い続けたい」と語った。

知恵と私たちの信仰

教区生涯養成委主催の公開聖書講座

教区生涯養成委員会は10月29日（日）、大分教区の山下 敦師を講師に招き、「旧約聖書の知恵と私たちの信仰」をテーマに公開聖書講座をカトリックセンターで行った。約140人が参加し、3時間に及ぶ講座を熱心に聴いた。

講師の山下 敦師

講師は、「知恵文学書（ヨブ記、箴言、コヘレトの言葉、雅歌、知恵の書、シラ書）は、旧約の教えと啓示を深めながら、新約のイエスの啓示へとつなげる役割を果たしているといえる」とし、多岐にわたる知恵文学書からいくつかのテーマを扱った。①「創造主である神」（被造物である人間）②「死」について③「財産・この世の物」についての考え方④その他の、生活における具体的教えや指針⑤シラ書がたたえる価値観など、教皇フランシスコの回勅も用いながら私たちの信仰に関わる問題として話した。

さらに、「主を畏れ敬うこと」は最も大切なテーマだと説明。しかし、「人はこの世界の中心にいて、すべてを思い通りにできるかのような思い上がりを無意識に持っている」そこで、「旧約聖書の知恵は、絶えず人間を原点に返そうと必死に呼び掛けている」。最後に「人生には喜びや苦しみ、驚きや予期せぬことがたくさんある。そのすべてを通して、いつくしみ深い神が今この時も、私たちを天の国の永遠の命に招いてくださっていることをしっかりと心に留めたい」とまとめた。

参加者の一人は、「旧約聖書は難しいのではないかと思いながら参加したが、分かりやすく説明された。次回も聴講したい」と語っていた。

聖霊のしるしを受けて

佐世保地区合同堅信式

佐々教会での合同堅信式

10月29日（日）、佐世保地区合同堅信式が佐々教会を会場に行われた。佐世保地区内11小教区からの成人16人を含む72人が「父のたまものである聖霊のしるし」を受けた。

髙見三明大司教は説教の中で、特に幼児洗礼の信者にとって堅信は信仰を自覚して宣言する機会であり、この信仰は「慈悲の所作」に代表される愛の実践に現れると述べ、一同を励ました。

ミサに続く感謝式で代表あいさつをした成人受堅者は、信仰に導かれた不思議と堅信を受けて信者としての自覚をさらに深めた思いを自分の言葉で披露した。一同に向けて大司教は聖体拝領の「アーメン」を例に、自覚した信仰宣言の大切さを繰り返し強調した。

また前日には、神崎教会公式訪問の大司教ミサの中でも、15人が堅信の秘跡の恵みを受けた。

東長崎教会も堅信式

東長崎教会では11月5日（日）9時のミサで、中学生28人が堅信の恵みにあずかった。同教会では2年に一度、堅信式が行われている。

バザーに福祉コーナーも

西町教会でダルクの活動など紹介

各小教区恒例のバザーが、ここ西町教会では10月29日（日）台風22号の強い風を受けながらも開催されました。西町教会では、バザー本来の目的以外に福祉コーナーを設け（写真）、昨年からダルクの活動を紹介しています。ダルクとはドラッグ（D）・アディクション（A）・リハビリテーション（R）・センター（C）の略で、依存症（薬物・アルコール・ギャンブル）からの回復と自立を支援する団体のことです。

今年はダルクの他、福島の原発事故から6年が過ぎ私たちの記憶から薄れつつある福島を忘れないでという願いを込めて、東京への自主避難者の子どもたちの声を集めた詩画集「ひまわりの丘」（著者・信木美穂）の販売をさせていただきました。この福祉コーナーが、有意義で充実したコーナーになっていくことを願っています。また、今年はボーイスカウト長崎第8団が会場内のごみ拾いに一役買ってくださいました。

西町教会信徒　鳥巣シオリ

〝伝統を受け継ぎ、新たな歴史を〟

海星学園創立125周年

11月1日諸聖人の祭日に、海星学園創立125周年記念式典が、長崎ブリックホールで開かれ（下の写真）、来賓・生徒・保護者・教職員、約2200名が長い伝統と歴史の節目を祝った。

海星学園（長崎市東山手町、生徒数1424名、清水政幸校長）は、1892年、フランスから渡来したマリア会員ジャック・バルツ神父によって創立。

「神愛・人間愛」（マタイ22・34～40）を校訓とし、カトリックの精神に基づいた人間教育に一貫して取り組み、これまでに3万2千名以上の卒業生を輩出し、国内外問わず、各界に幾多の人材を送り続けている。2006年に、男女共学の「ステラ・マリスコース」を新設し、100年以上続いた男子校から共学校となった。

本年、創立125周年記念事業として、校舎・中央館の建て替えを実施したほか、グラウンドの人工芝造成を行い、ソフトテニス場オムニコートも完成し、教育環境の充実を図った。

記念式典で、坪光正躬（つぼこうまさちか）理事長（マリア会司祭、右の写真）は「先輩が残した素晴らしい伝統を受け継ぎ、新たな歴史を切り開くよう精進することが肝要」と式辞を述べた。生徒代表で海星高3年の福田みなみさんは「マリアニスト・ファミリーの誇りと自覚を持ち、社会に貢献できるよう努める」とあいさつした。カトリック長崎大司教区長・髙見三明大司教が「マリア会創立200周年と海星創立125周年の2つの節目にあたり、マリア会と海星学園の益々の発展を祈念する」と祝辞を述べ、最後に校歌を斉唱し式典を締めくくった。

海星学園 宗教部長　福田宏樹

みことばにふれて143

チャーリー・ポムセノ神父（城山教会）

世界で一番クリスマスシーズンが長いのはフィリピンです。フィリピンではクリスマスが大きな祝日ですから、どこの国に行ってもフィリピン人は自分たちのやり方でクリスマスを祝います。フィリピン人にとって、クリスマスは人生の一部です。

フィリピンではクリスマスは9月1日に始まります。だから9月になると、フィリピンのモールの中はクリスマスツリー、クリスマスカード、クリスマスケーキなどで飾られ、ラジオ放送はクリスマスの歌を流し始めます。また、教会では馬小屋を飾ります。経済は活気づき、ビジネスマンにとってはクリスマス節は祝福です。つまり、フィリピンのクリスマス節はほかの国とは比べられません。もし、フィリピンのクリスマスを体験することに興味があるならば、どうぞ行って見てください。

フィリピンではクリスマスは長い休日で、子どもたちだけでなく大人たちも休日を楽しみます。雇われている人たちにとっては働かなくても給料を貰えるし、子どもたちには遊ぶ時間がたくさんあります。私が子どもだった時、クリスマスの休日前には学校でクリスマスパーティーがあったことを思い出します。パーティーでは私たちは食べたり、踊ったり歌ったり、贈り物の交換をしたりもしました。だからとても楽しみにしていました。皆さんにクリスマスプレゼントの交換の仕方を説明しましょう。

先生が私たちの名前を小さな紙に書き、壺の中に入れます。それから私たち一人一人が壺から一枚の紙を取り出し、そこに書いてある名前を静かに読みます。そして、みんなで歌を歌いながら紙に書いてある名前の人のところへ行き、贈り物を交換します。その時みんな喜んで叫びました。だからとても楽しかったです。パーティーは大抵、私たちが自分のことを反省し、お祈りで終わりました。

私も同級生も若い頃はその反省は短いものでした。しかし私たちが成長するにつれて、クリスマスについての考え方も変わってきました。でも私たちが共に過ごした若い頃のクリスマスが忘れられません。

親愛なる皆さん、これが私の皆さんへのクリスマスのごあいさつです。

世間の人々は知らないのです。人々はクリスマスとはツリーの下に置かれた贈り物のことだとか、家族そろってのパーティーの陽気な気分のことだと思っています。それはそれなりに良いことかもしれませんが、本当のクリスマスの意味は次のようなことです。つまり、神があなたがたのために救い主を贈られました。あなたがたを罪から救い、この世での恐れを和らげるために。

恐れるな（イザヤ41・10、マタイ14・27）、救い主があなたがたに生まれたのだから、主なるキリストが！

ふどう園

▼第26回子ども聖歌の集い　12月3日(日)13時～16時、中町教会。

▼平戸ザビエル祭　12月3日(日)、平戸ザビエル記念教会。①13時～ 講演会　講師・中島誠志師（長崎教区司祭、日本カトリック神学院）②14時～ミサ。

▼ポーランド映画祭2017・コルベ神父の生涯を描いた映画『二つの冠』上映会　12月11日(月)、カトリックセンター・ホール。①18時～ オープニングセレモニー ②18時30分～ 上映 ③上映後、トーク。入場無料。ポーランド広報文化センター主催。事前申込みが必要。問合先・教区本部事務局 TEL095-842-4450

▼召命祈願ミサ　12月17日(日)14時、城山教会。

▼講演会「知っていますか？ ベトナムの教会の現状と日本で働く技能実習生」　12月17日(日)13時30分～16時、カトリックセンター・ホール。講師 グエン・クアン・トゥアン師（広島教区）、岩本光弘氏（福岡教区信徒・外国人技能実習生権利ネットワーク九州）。教区人権・難民移住移動者委員会主催。

▼臨床パストラル教育研究センター一日研修会『スピリチュアルケアは誰が誰にするのか』　2018年2月24日(土)9時30分～16時30分、聖フランシスコ病院エリザベートホール。講師・加藤理人氏（同センター監事）。参加費2千円。同センター九州ブロック主催。申込先（2月14日〆切、ファックスまたは郵送で）・聖フランシスコ病院パストラルケア室 Sr.石岡 FAX095-845-7600 〒852-8125 長崎市小峰町9番20号。

子どもと女性の人権相談室

最初のご相談はお電話でお願いいたします。詳細は各小教区に配布されているポスターをご参照ください。

場所　カトリックセンター別館
連絡先　095-865-7829
時間　月～金　10時～16時
＊第3月曜日と休日（祝日・教区本部事務局休業日など）を除く

相談室室長　福田真理

ペトロ岐部と187殉教者列福式記念墓地・髙見三明大司教祝福
カトリック長崎中央墓園
所在地：長崎市田中町3540番地6～7　既存道名：中尾木場（木場峠付近）
開発総面積：2648.66㎡　付帯設備：照明、水道、管理棟
自然の中で故人と静かに語りあえる天の門

（区画/規格：1.5m×2.0m　3.0m）
墓碑1区画（青・桜・白）……160万円（内 永代使用料150万円）
管理費（10年分）（法要料込）6万円
月額2万円より分割可能
◆自由区画もあります
（納骨堂式）
納骨堂式1基（3段）……70万円（内 永代使用料60万円）
管理費（10年分）（法要料込）3万円
平成28年度 バリアフリー仕様（法面補修工事）
駐車場26台以上完備
トイレ・給水設備完備
十字架墓標新規完備
ゴミステーション完備
墓地管理委員会
〒850-0055 長崎市中町1-13 カトリック中町教会内 代表　主任司祭　橋本 勲
TEL　095-823-2484　FAX　095-823-2486
問い合わせ
有限会社 長崎観光商事（石材部 観光石材）
〒850-0066 長崎市大浜4-50-111 TEL095-834-4910 FAX095-834-4912

タンスの中身は入れたまま
責任ある安全運送!!
（見積り無料・荷造り発送も致します）
貨物保険有り
・一般引越　・小荷物
・荒ゴミ捨て　・遠距離
・学生引越　・ピアノ運搬
24時間営業・年中無休
受付時間 7：00～22：00
水浦運送
シモン　水浦幹雄
長崎市上野町12－3
TEL(095)(代)847－7151
844－1420

主の平安
カトリック式葬祭・飾付一式
（有）栄光式典社
代表取締役　ヨハネ　西村勇二
長崎市辻町7-18
24時間営業
TEL(095)844－4011
FAX(095)843－9896